

技能評価システム移転促進事業 (SESPP)

事業実施報告書【カンボジア】

担当講師	萩生田 幸男（高和電気工業株式会社）
実施期間	2022年12月19日（月）～12月23日（金）
実施場所	カンボジア プノンペン市 産業技術大学 (ITI)
研修	技能評価者講習 (SAT)・技能評価トライアル (SET)
実施職種	配電盤・制御盤組立て作業 2 級

2023年1月

結果概要

1. 対象者数：SAT 受講者数 10名 / 修了者数 10名
 SET 評価者数 10名 / 受検者数 4名 / 合格者数 0名

2. 日程

日時	指導内容
12月19日(月) 8:30~16:00 (全て現地時間)	<p>【開講式】 ITIにおいて関係者(ITI学長のH.E. Chin Tara 出席)で開講式を挙行</p> <p>【オリエンテーション】</p> <p>① 技能評価者講習(SAT)開始の挨拶(押手、萩生田)</p> <p>② 受講者名簿を基に受講者チェック(名簿は10名)</p> <p>③ 自己紹介(新規受講者2名のみ)</p> <p>④ 研修スケジュール確認</p> <p>【2級SAT・SET準備一覧表 説明】 今回新規資料として作成。ため、SAT・SET準備一覧表の詳細を説明。特にSETは準備する内容が多いため詳細を説明し今回のSET本番に活かす。</p> <p>【2級実技試験問題解説】 3級との相違点を中心に2級の実技試験課題を説明。(表示灯、押しボタンスイッチの配置は、日本の検定に合わせて実施する事を確認)</p> <p>【2級実技試験実施要領説明】 3級との相違点を中心に2級の実技試験実施要領を説明。</p> <p>【2級の実技採点基準・要領説明】</p> <p>① 基本的には3級と同様の基準と説明</p> <p>② 採点は100点からの減点方式であることを説明</p>
12月20日(火) 8:30~16:00	<p>【前日から継続2級の実技採点基準・要領説明】</p> <p>【採点方法研修】</p> <p>【SET役割分担を決定】 受講者全員にSET時と同様な役割を設定して、事前に製作して頂いた実技試験課題を基に採点方法研修を実施。(各役割、採点方法、集計方法等確認)</p> <p>【評価者チェックシートでトライアル準備状況を確認】 評価者チェックシートで、現場、現物を見ながら準備状況についてリストを基に確認。</p> <p>【SET学科試験受付等準備】 SET学科試験受付等準備状況を現場・現物で確認。</p>
12月21日(水) 8:30~16:00	<p>【SET学科試験受付・学科試験説明・学科試験実施】</p> <p>① 各役割に沿って学科試験受付を実施</p> <p>② チーフアセッサーが学科試験方法を説明し学科試験(今回は講師が作成)を実施。(真偽法25問、多肢択一法25問 合計50問:1h45m)</p> <p>【SET実技試験準備】 学科試験担当者以外の方が、SET準備一覧表及びチェックシートで確認しながら実技試験の準備を実施。(チーフアセッサーがリーダーで) 実技試験前日にSET受検者に実技試験申合わせ事項等説明を実施。</p>

	<p>【SET 学科試験採点・集計】 学科試験担当者が採点・集計しチーフアセッサーに報告。</p>
<p>12月22日(木) 8:00~16:00</p>	<p>【SET 実技試験】 各役割が担当して実施</p> <p>① 受検者の受付 ② 実技試験のスケジュール、注意事項、各器具の設定方等説明 ③ 実技試験開始 ④ 各役割実施（アセッサー、アシスタントアセッサー）</p> <p>【受検者アンケート作成】 QRコードを読み取り、FORMSにて各自で実施すると自動的に事務局に転送</p> <p>【SET 実技試験採点】</p> <p>① アセッサー採点実施（不足、間違いはその場で指導実施） ② アシスタントアセッサーの採点実施（全項目に対して不足、間違いはその場で指導実施）</p>
<p>12月23日(金) 8:30~15:00</p>	<p>【SET 実技試験採点継続】</p> <p>① アシスタントアセッサーが採点。荷札をアセッサーが確認して最終不適合を確定。 ② 確定。荷札に記載されている不適合内容を、採点集計表に転記。（共にダブルチェックで漏れ、間違いがないか確認しながら実施）</p> <p>【SET 実技試験集計】 採点集計表のA~Eまでの小計を算出して、集計表に転記して最終得点、合否を明記。（ダブルチェックで実施）</p> <p>【SET 全体集計&最終結果まとめ】 3人のアセッサーが全ての採点集計表の確認が取れたら、全ての採点集計表にサインする。（集計表の記載は全て消せないボールペンで記載）</p> <p>① 今回の学科試験問題は、真偽法（正しい場合レ点、間違っている場合×）と多肢択一法で実施。（2級は初めてなので、日本の講師が作成し非公開とした：平均点46.5点 電気機器組立て問題の電気部品、電力測定、電気回路等が苦手であることが分かった。）</p> <p>② 2級の実技試験のSETはASEANで初めてであり、3級と比べかなりレベルアップしているため、全員が延長を使い1名は何とか合格点、他2名は未達、1名は失格となった。</p> <p>【SET 評価会（講評&質疑応答）】</p> <p>① 今回は4年振りに現地で初めて2級のSETを行う事ができた。 実技試験の一部準備不足、実技試験技能レベル、採点方法等の改善点を詳細に説明し、初めての受講者もいたが受講者全員の理解が得られた。</p> <p>② 受講者からの発言を聞いて、今回の研修は理解できた事を確認。</p> <p>【受講者アンケート作成】 QRコードを読み取り、FORMSにて各自で実施すると自動的に事務局に転送。同様に上長管理者にもアンケート実施を依頼。</p> <p>【閉講式】 ITIにおいて関係者（ITI副学長出席）で閉講式を挙行</p>



開講式



採点方法研修



実技試験



実技試験



実技試験採点



実技試験動作試験

1. 講評

今年度のカンボジア研修は、まだコロナ禍ではあったが 2022/12/19～23 までの 1 週間に渡り、現地 ITI で 4 年ぶりの開催となった。昨年から 2 級の課題になり、今回も SAT を実施してから初めて 2 級の SET を実施した。SET を現地でできた事はとても有意義であり、関係者（特に ITI 関係者）のご支援とご協力を賜り大変感謝する。2 級の課題での SET は 3 級に比べてかなりレベルアップされていて、受検者は学科試験及び実技試験共に苦戦していて、技能力向上に向け更なる努力が必要と感じた。また、受講者は真面目に一生懸命取り組んで頂き SET を理解し習得して頂いた。

3. アンケート結果

<SAT>

◆評価者 10 名（回答者 10 名）

満足度：	大変満足=9 人	満足=1 人
役立ち度：	大変役立つ=9 人	役立つ=1 人
継続性：	是非継続すべき=6 人	継続すべき=4 人

【改善点・提案】

- ・研修生が日本での試験を直接見学できるようにアレンジして欲しい。
- ・1 級レベルまで研修を継続して欲しい。
- ・専門家の先生が詳しく説明くださったので改善すべき点はない。

【意見・感想・実施希望】

- ・1級レベルまで研修を継続して欲しい。(6)
- ・電工(3)
- ・配電盤制御盤組立ての全ての級の研修を実施して欲しい。

◆現地責任者1名(回答者1名)

継続性： 是非とも継続すべき=1人

【改善点・提案】

2級の認定評価者が誕生するまで継続して欲しい。

【意見・感想・実施希望】

機械系分野の評価者育成の研修を実施して欲しい。また、ITIにおける機械系分野のカリキュラム改善において支援をお願いしたい。

<SET>

◆評価者10名(回答者10名)

満足度：	大変満足=8人	満足=2人
役立ち度：	大変役立つ=10人	役立つ=0人
向上度：	大変向上.=6人	向上.=4人
継続期待度：	是非とも継続すべき=9人	継続すべき=1人

【改善点・提案】

- ・出来れば、来年、日本側に圧着器、ダクトカッターなどを支援して欲しい。
- ・カンボジアには無い道具や部品を支援して欲しい。
- ・出来れば、日本へ行って、日本での試験を直接見学できるようにして欲しい。
- ・1級の技能評価研修を実施して欲しい。
- ・この職種の研修を継続して欲しい。

【意見・感想・実施希望】

- ・電工(2)
- ・この研修を継続して欲しい。(4)
- ・1級まで継続して欲しい。(3)
- ・フィードバック制御システム

◆受検者4名(回答者4名)

満足度：	大変満足=0人	満足=4人
役立ち度：	大変役立つ=2人	役立つ=2人
継続期待度：	是非とも継続すべき=1人	継続すべき=3人

【改善点・提案】

- ・引き続き教えて欲しい。
- ・もし同様なトライアルテストがある場合、トライアルテストの課題は正しい専門用語の翻訳が欲しいことと、トライアル1ヶ月前には日本の専門家による研修を実施して欲しい。

【意見・感想・実施希望】

- ・電子、電気分野

- ・この分野を引き続き実施して欲しい。
- ・評価方法についてもっと指導して欲しい。
- ・この分野を引き続き実施して頂き、スキルを向上させたい。

◆現地責任者 1 名（回答者 1 名）

継続性： 是非継続すべき=1 人

【改善点・提案】

カンボジア労働・職業訓練省がこの PDPCA をカンボジアのスタンダードにするように、事務局からは是非働きかけて欲しい。また、日本のスタンダードを ITI の学生に理解してもらうために、是非カンボジアの教員を訓練して頂くとともに研修に必要な機材なども支援して欲しい。

【意見・感想・実施希望】

ITI の教員に PLC についての研修コースを実施して欲しい。